



Title	GLOCOLブックレット11 目次
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2013, 11
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/48262">https://hdl.handle.net/11094/48262</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## GLOCOLブックレットの創刊にさいして

「GLOCOLブックレット」は、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（以下、GLOCOL）が企画・実施している、教育、研究、実践の3領域にわたる活動の成果を大阪大学内外に知らしめるために創刊されました。2007年4月に開設されたGLOCOLは、大阪外国語大学との統合後の新大阪大学における新たな教育理念を具現化するため、教育プログラムの改革をおこなうことを第一の使命としています。

グローバル化のなかで、現代の世界は、紛争、貧困、文化の衝突、感染症、環境破壊といったさまざまな問題に直面しています。経済的繁栄のなかで、他の国や地域の問題は「他人事」ですましてきた日本という国の住民も、ナショナルな枠組みのなかで居住することはもはや困難になっています。現在の総合大学に課されているのは、こうした世界の状況を適切に理解し、その改善や解決に向けて真の「国際性」(intercultural communicability)をもって主体的に行動することのできる人材を養成することであると考えます。この責務を実現するためには、従来の学部・研究科の枠組みを超えた連携（コラボレーション）が必要です。連携のパートナーには、学外・国外の研究機関、開発援助機関や市民団体も含まれます。GLOCOLの役割は、こうした連携の媒介者兼牽引者となることです。

先端的な教育プログラムの開発は、先端的な研究の裏打ちがあつてはじめて可能になるものです。GLOCOLが、「人間の安全保障」と「多文化共生」を二つの柱とする研究の推進に力点を置いているのはそのためです。また、GLOCOLにおける教育研究のプロジェクトは、現代世界の動態と深く関連しているがゆえに、学生と教員の双方は必然的に「現実とのかかわり方」の模索を求められることになります。それゆえに、GLOCOLが教育・研究・実践の「三位一体」をスローガンにしているのです。

「GLOCOLブックレット」は、シンポジウム、ワークショップ、研究プロジェクト、教育プログラムの開発、実践とのかかわりなど、GLOCOLのさまざまな事業を報告するメディアです。皆様のご理解とご支援をお願いするしだいです。

2009年2月

大阪大学グローバルコラボレーションセンター  
GLOCOLブックレット編集委員会



# メコン

GLOCOL海外フィールドスタディによる  
教育と研究の連携への試み

Mekong

住村欣範・思沁夫 [編]

## 目次

はじめに

住村欣範 — 003

### 【第1部】西双版納

西双版納について

思沁夫 — 007

納板保護区における人々の生活の変化について

観察・聞き取りからの一考察 西 かおり — 017

納板河流域国立自然保護区における人々と水利用 宇都宮まゆみ — 027

ゴム農園と水質汚染 朱倩沁 — 037

雲南省西双版納傣族自治州におけるプランテーション 石田知也 — 045

納板河流域国立自然保護区におけるバイオマスの利活用 切川菜央 — 055

アイデンティティ 小田 歩 — 067

### 【第2部】メコンデルタ

メコンデルタについて 住村欣範 — 081

カントーにおける植物利用とローカル・ナレッジについて

宇都宮まゆみ — 087

メコンデルタ地域における農家の気候変動に対する適応 石田知也 — 095

メコンデルタ地域における人々の水利用について 田中嵩大・西 かおり — 107

メコンデルタ地域のコミュニティにみるセーフティネットとしての共同性

脇阪理沙 — 123

ベトナムにおける食と健康環境についての報告

宇高麻子、武本 渚、峠 知子、奥嶋真央、安田憲朋 — 137